

○「プランの実質化と活動目標を検討」

(京都府綴喜郡井手町地区連絡会議)(第6回)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 令和元年9月10日午前10時30分～
- 場 所: 井手町自然休養村管理センター
- 出席者: 委員11人
事務局 菱本事務局長、坂井担当
- 報告者: 今井 農業会議現地推進役

写真・図面
(地区連の写真又は
必要に応じた活動の写真や図面)

2 地区の特徴、状況、課題

- 本町の西側を木津川が南北に流れ、東側には山地が広がり、中央部にJRが南北に走っている。
- 農地は、主に木津川とJRに挟まれた平坦部に広がり、米を中心に筍、茶が栽培されている。
- 担い手が少なく、高齢化により、ほ場条件の悪い山手の農地で遊休化が進んでいる。



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 井手町農業委員会では、10a以上の農地を耕作する農家を対象としたアンケートについて、現時点の回収率が50%程度であることを報告した。
- 今回、活動目標を設定するに当たり、事務局から活動目標について説明し、委員の意見交換を行った。その結果、地区連の活動目標は「みんなで地域農業の将来の姿を話し合おう」と決定した。
- また、委員の活動目標は、今回実施のアンケート結果を地域農家に返すことが求められる中で、「アンケート結果を図面に落とし、将来の地域農業の姿を話し合う場づくりに取り組む」とこととされた。
- プランの実質化で期待される委員の役割についても説明され、委員から、アンケートの回収率を高める取り組みや地図の色塗りの効率的な方法等について意見が出された。

4 活動結果

- 情報・意見交換 1 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援